

## 14 はげまし合った夜

東日本大震災<sup>しんさい</sup>の夜、人々がどのような夜を過ごしたのかを考えよう。

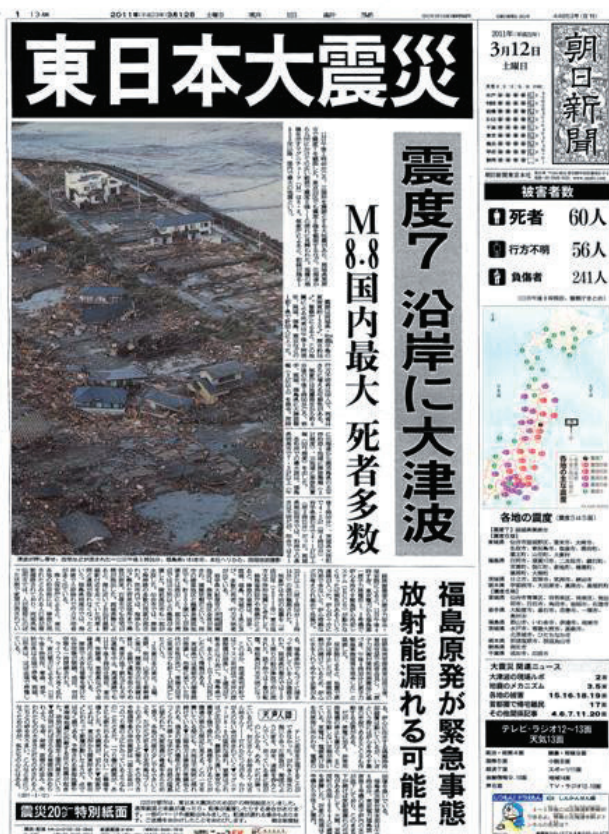
平成23年3月11日の東日本大震災<sup>しんさい</sup>で、石巻市内<sup>うみぞ</sup>の海沿いや北上川とその支流<sup>しりゅう</sup>に近い地域<sup>ちいき</sup>は、これまでにない大きな被害<sup>ひがい</sup>を受けました。

津波<sup>つなみ</sup>から逃れる<sup>のが</sup>ことができた人々は、避難所<sup>ひなんじょ</sup>や自分の家で、地域<sup>ちいき</sup>の人々や家族と不安な夜を過ごしました。ライフライン(電気・水道・ガス)は使えなくなっていました。ラジオなどでニュースを聞くことはできましたが、携帯電話<sup>けいたいでんわ</sup>やメールが使えなくなり、家族や友達とまったく連絡<sup>れんらく</sup>ができませんでした。

人々は、お互い<sup>たが</sup>はげまし合い、助け合って、不安にたえながらがんばりました。

### ○子どもたちもがんばった夜

大地震<sup>しん</sup>そして津波<sup>つなみ</sup>が街<sup>まち</sup>をおそった日、避難所<sup>ひなんじょ</sup>になったある小学校では、避難した700名余りの人々が身を寄せ合い、寒い夜<sup>ひんや</sup>を過ごしました。3月とはいえ、夜になると気温が下がり、はく息は真っ白です。



平成23年3月12日付「朝日新聞」



みんなで教室の机つくえやイスをろう下に出し、学校中のカーテンをはずして体に巻まきつけたり、床ゆかにしいたりしました。学校の先生方の体育着やスーツ、靴などは避難してきた方の着替えとして使きっていただきました。5・6年生の子どもたちの体育着も、ほとんどが避難者の方の着替えとして利用されました。また、この学校には、非常時用の水や食べ物、毛布などの蓄たくわえはありませんでした。

先生方や地域のリーダーの方が中心となって、職員室のコーヒー用のシュガースティックや放課後児童クラブのおかしを少しずつ分け、子どもとお年寄りだけにとお願いして配りました。子どもたちは、あめを1個またはシュガースティック半分という夕食となってしまうましたが、どの子もわがママを言わず「ありがとう」と言なって受け取っていました。また、「おうちに帰りたい」と泣き出してしまった1・2年生の子を優しくだっこしてあげる5・6年生のお兄さん・お姉さんの姿もありました。

こうして照明も暖房もない中、命をつなぐために声をかけ合い、はげまし合あって大震災の日の夜を過ごしました。



◎「はげまし合った夜」を読んで、考えたことを書きましょう。

-----  
-----  
-----  
-----  
-----